

平成28年8月19日

相生市議会議長

三浦 隆利 様

会 派 名 公明党

代表者名 後田 正信

出張報告書

政務活動費により視察、研修、要請・陳情活動、会議のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

氏 名	後田 正信	
日 程	平成28年8月4日から8月5日まで2日間	
月 日	視察、研修、要請・陳情活動、会議先	視察、研修、要請・陳情活動、会議項目
8・4	全国市町村議会議員研修	地域医療・福祉のあり方・地方自治体に求められる役割について
8・5	同 上	同 上

旅費 (1名分)	負担金 (1名分)	合 計 (1名分)
6,040円	7,732円	13,772円



8月4日(木)

13:00 開校式

13:15~14:45(講義) 「医療機関・住民とともに地域医療を支える取り組み」

講師 自治医科大学地域医療学センター長 梶井 英治

15:00~16:30(講義) 「地域まるごとケア」(医療の現場から)

講師 東近江市永源寺診療所所長 花戸 貴司

16:30~ 入寮オリエンテーション

8月5日(金)

9:00~10:30 (事例紹介) 「介護予防の公的責任と自治体」

講師 埼玉県和光市保健福祉部部長 東内 京一

10:45~12:15 (講義)

「地域を健康にするまちづくり」

筑波大学大学院人間総合研究科学研究科スポーツ医学専攻教授 久野 譜也

8月4日(木)

「医療機関・住民とともに地域医療を支える取り組み」

国の医療 医療政策の現状・医師不足の現状等についての説明があり、住民が参加する地域医療作りについて兵庫県西脇市、栃木県小山市の事例を紹介

- ① 地域医療を守り育てることへの住民の理解と行動(小児医療を守る会によるコンビニ受診抑制運動当直の職員におにぎりボランティア等)②住民・行政・医療関係者の協働による地域医療づくり(地域医療を考える市民会議、地域医療を守る条例)そこまでしなければ医師は来ないのか?そうでは無く、その行動の裏側には人と人との関係お互い様、感謝が存在するから人であり地域医療が守られていく。との講義がありました。

「地域まるごとケア」(医療の現場から)

- ① 東近江市永源寺診療所の対象人口は5800人高齢化率30%医師一人、看護師5人無床診療所平成20年より指定管理
- ② 取り組みと実例をもとに、地域医療とは地域で「医療を行う」というだけでなく、医療を通しての「地域づくり」だとの考えの下に、医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、ホームヘルパー、デイサービススタッフ、ケアマネジャー、行政、家族、ご近所の方々等の多種多様が連携し人としての尊重を守り、住み慣れた地域で最後まで安心して暮らし続けられる「永源寺地域まるごとケア」を行っています。との講義がありました。

8月5日（金）

「介護予防の公的責任と自治体」

和光市における超高齢化社会に対応した地域包括ケアシステムの実践についての講演があり、国の要介護度別認定者数では要支援1から要介護1の方が5割合ちかく占めており、ここをどのように充実して日常に戻していくか、そうすれば介護4・5が減っていき日常生活ができる人口も増加し維持していくとの考えの下、軽度認定者に対して介護予防に力を入れることで（廃用症候群・加齢に伴って体の調子が悪くなるかたが、この領域に約60%方が存在しこの方々をいかにして早く継続した日常生活に、またいけなかったサービスA型にまた行くことができるようにして行くことに力を入れているから）現在の和光市では、要支援1から要介護1の方が全国平均よりも4割以下の認定者を実現している。（高齢者の自立支援・介護予防に取り組むことにより、第6期介護保険料は全国平均5,550円程度であるが和光市では4,228円程度ある）との講義がありました。

「地域を健康にするまちづくり」

皆さんのまちが健康になれるまちですか？その問いから始まり、国民においても健康づくりに対して無関心な層が成人の7割にも上り、無関心層を関心層へと変えると同時に、無関心のまま健康にしてしまう施策も必要であると考えます。

ではどのようにすればよいのかの問いに①歩いて生活することを基本とする「まち」、そのためには、まちがコンパクトであり、公共交通がサポートされている「まち」②高齢者がしゃかいてきやくわりを持てる「まち」、高齢者を一方的に弱者とせず元気に過ごす自然と長くなる「まち」③市民の健康・医療情報のデータに基づき、的確な健康づくり施策が展開される「まち」④住民の行動変容を起こすために、健康に関心が薄い層も含めて、対象に適した情報が戦略的に提供され続ける「まち」の構築を目指すことが必要です。（事例として新潟県見附市）との講義がありました。